ＡＳＳＡＬ 便り

積女ASSALかんさい　2019年度　現場見学会

開催日時：2020年2月27日(木)　14:00～15:30

「平城宮第一次大極殿院 南門復原整備工事」の見学会を開催いたしました。

出席者

No.	参加者氏名	備考	No.	参加者氏名	備考
1	倉本さん	新規	11	中尾さん	
2	高寺さん	新規	12	**中園さん**	
3	小林さん		13	中道さん	
4	小原さん		14	細川さん	新規
5	佐々木さん		15	村上さん	
6	**島田さん**	新規	16	吉田さん	
7	高松さん		17	脇坂さん	新規
8	田中さん	新規	18	杉山さん	積算協会
9	鶴身さん	新規	19	**北野**	積算協会
10	**中井さん**		20	**塩谷**	積算協会

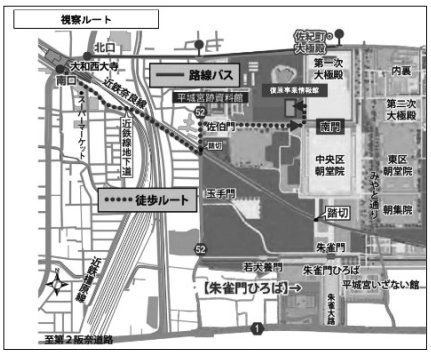
※記載は50音順　※太字は男性

平城宮跡管理センター　奈良県奈良市二条大路南3丁目5番1号　TEL 0742-36-8780

「あをによし　奈良のみやこは咲く花の　にほふがごとく　今さかりなり」

早春の大和路に行って来ました。

近畿日本鉄道奈良線大和西大寺駅から徒歩で約20分、もうそこは平城京の中心地。約1300年の時を超え、第一次大極殿院南門復原整備工事が進んでいました。



まず冒頭に、国営飛鳥歴史公園事務所平城分室の副所長より復原事業情報館において、事業の説明と工事の概要説明を受け、シアターコーナーで南門復原工事の着工から現在までの工事の映像を見せてもらいました。

復原事業情報館内の展示コーナーには、古代建築に使われた道具類や、その道具で削った木材・組み物、瓦など、情報満載の展示物が展示してありました。

また、すでに建設が終了している大一次大極殿復元工事の記録映像も見ることが出来ました。

古代建築の道具類をどの用に使って仕事をするのかを、現場所長の説明を受けました。

土台となる礎石は、国交省の工事で出た自然石（御影石）を取り寄せ加工したもの。信楽、湖西、三重県の3ヶ所より取り寄せた。

復原工事をするために素屋根を掛けているが、鉄骨が1,000トンも使われていると聞いて驚きでした。

1階の柱の径は600mmを超え、推定樹齢200年を超えたものを使っているとか。また、木材も各地から取り寄せたものが使われているらしい。

奈良県産、三重県産、和歌山県産、愛知県産。

木材を裁断したあと、ちょうな（手斧）で丸みをつけ、槍鉋（やりがんな）で仕上ていました。

素屋根内部では、すでに主な骨組が組み上がっていて、垂木等の小物部材や仕上げ部材の取り付けに移行していました。

南門建屋内部には制震装置が組み込まれ、地震に対応出来るようハイブリット構造となっていて、現代における復原工事の内容になっていてすばらしい。

素屋根が、将来の東西楼閣工事のときにスライドして移動できるように考えてあるのには驚いた。

暦の上では、もう春。

平城宮跡歴史公園内の梅の花が満開を前にして身震いをするような、霰（アラレ）がパラつく寒い日でしたが、古代のロマンに思いを馳せたひと時でした。

寒かった〜！　でも、滅多に見られない古代建築には、目を見張りました。